

「私たちの負い目をお赦してください」 マタイ6：9-13 16・5・22

I 「天にいます

(天と地の創造者、偉大な方)

私たちの父よ

(私達を心から愛して下さる、すべての恵みを与えて下さる愛の霊的な親である方)。

御名があがめられますように

(神が私達を造り、命を与え、救い、罪の赦しと永遠の命を与えられた目的は、私達が心から感謝して、神の御名、神ご自身を崇め賛美し礼拝する事)。

御国が来ますように

(まず、私の心の中の王座から私の自我が降りて、主ご自身を心の王座に迎え、私の心と生活に、私の我がままな支配ではなく、神の御国＝御支配が広まりますように。神の時に主が再臨され、新しい神の国が始まりますように)。

みこころが天で行われるように地でも行われますように

(まず、私の生活の中で、私自身が、いつも神の御心を祈り求め、神の御心を第一として喜び歩めますように。私のあせる、せっかちな願いではなく、神の最善の御心が行われますように)。

私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください

(私も他の人にも、その日の必要を与えて下さい。物質的、霊的なすべての必要は神が与えられているもので、何一つ当然、当たり前のものはない事、すべては神の恵みである事をいつも自覚できますように)」：9-11。

II 「私たちの負い目をお赦してください。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦しました」：12。

この祈りは、「私達が、私たちに負い目（罪を償わなければならない負債、罪）のある人達を赦しましたので（それを条件として）、私たちの負い目をお赦し下さい」という意味ではない。

もしそれが条件なら、行いによる救い、赦しとなってしまう。主は、ここで、まず神に赦された私達が神に赦しを感謝しつつ他の人を赦す事の必要性、大切さを私達に自覚させておられる。

まず私達が主の十字架の恵みとその主を信じる信仰により神の完全な救い、赦しをいただいているという恵みが先行しており、決して変わらない。

但し、この地上では、私達は、神に罪（不品行、汚れ、偶像礼拝、憎しみ、恨み、ねたみ、陰口、悪口、嘘、不法な遊び、酒に酔う酩酊 ※私達の醜い心の中と陰の行為のすべてが、スクリーンに映し出されたら、他の皆さんと一緒に見られるだろうか？ 私は、恥ずかしくて「止めて下さい」とお願いするだろう。神は、私達の心の中と人に知られていないすべての行為を見ておられ、ご存知。それらのすべての罪の為に主が十字架で死んで下さった。何という恵み！)を犯す時、神との関係を回復するために罪の告白（私の罪を赦して下さいとの祈り）が必要（Iヨハネ1：9）。

愛と偉大な神は、罪の赦しだけでなく、本気で祈り求め、互いに祈り合うなら、罪、悪習からの解放も与えて下さる。御言葉は、いつでも、聖書全体から解釈すべき。

ここで言われている事は、マタイ18：23-35で教えられている。

主が私の罪の為に十字架で死なれたと信じる私達は、自分の莫大な罪の負債、何億と言う罪を主の十字架の償い、私達の罪の負債の完全な完済という大きな恵みで、完全な赦しが与えられている。

この地上でも、ある多額の負債の心の重荷があり、それが完済される解放の喜びが知られている。私達の罪の負債の重荷は、それ以上であり、自分の努力では、一生かけても、いや永遠に返済できない罪の負債が、主の十字架の償い、主の十字架の血、命という高価な代価による完済の恵みで罪が赦され、罪の負い目から解放されている喜びは、何にも比べられない恵みである。その恵み、愛、赦しを本当に理解し驚き感謝しているなら、私達に罪を犯す人を赦せるように変えられる。自分自身は、何億という罪、負債を主の十字架の血、命という世界中のお金より高価な代価で赦されているながら、私は人を赦したくないと思っているなら、私達は、まだまだ、私達の罪の負債の大きさと、その私達への神の赦しがどんなに大きいかを自覚する事が足りないのである。

人を赦せない戦いがある時、神の前に静まり、今日まで、どんなに多くの、数えきれない罪を神に赦していただいて来たかを深く思い起こす時を持ちたい。

神の赦しの恵みを深く知っているある説教者は語っている。

「キリストの尊い血によって、自分が赦された事を深く知っている人は、他人を赦さないではいられない。赦そうとする自分を押さえられない。もし私達がキリストを真に自分の救い主として知っているなら、私達の心は砕かれ、かたくななままでいる事はできない。…神の栄光の為に、また、謙遜をもって申し上げるのだが、私は、神の前における私自身を見、ほむべき主イエスが私にして下さった事の幾分かでも悟る時、誰にでも、何事でも喜んで赦そうとする。赦しを押さえるわけにはいかないし、押さえたいとも思いもしない」。

私も本音で、こう言えるように変えられ続けたい。

私達は、この祈りをささげる度に、先行している神の赦しの恵みとその神の愛で人を赦す事を神が求めておられる事を覚えたい。

「神がキリストにおいてあなたがたを赦して下さったように、互いに赦し合いなさい」
エペソ4：32。

いつも順序に目を留めたい。互いに赦し合う前に、まず神の赦しの恵みがある！

もし、ある人を赦す事が難しい中にある時、まず、神が私自身を愛し赦された恵みを覚える事が出来るように祈りたい。また、神の愛、大きな赦しをもって、その人を心から赦せるように祈りたい。神に赦されているながら、自分は人を赦さないで、その人を恨み、憎み続ける選択をするなら、人も自分自身も傷つき続け、神の祝福が注がれる霊的な管も詰まってしまう。神は赦す愛を下さる方！
祈り求めよう。